

## 令和5（2023）年度第2回柏崎市スポーツ推進審議会

1 日 時 令和6（2024）年2月28日（水） 午後3時00分～午後4時00分

2 会 場 中央地区コミュニティセンター2階 会議室

3 出席者 【委員】

石井卓委員、須藤泰司委員、池田弘委員、佐藤幸治委員、重野典子委員  
後藤由香理委員、五十嵐一嘉委員、遠藤正人委員、岡村宜城委員、上島慶委員  
小山真樹委員、飯塚政洋委員、小山久子委員

【事務局】

宮崎教育部長  
スポーツ振興課 藤巻課長、鈴木係長、秦野主任  
学校教育課 上野指導主事

4 会議概要

(1) 開会

宮崎教育部長 あいさつ

本日は大変お忙しいところ、今任期最後となる審議会に、ご出席していただき大変ありがとうございます。

今年度を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が5月8日に第2類から第5類へ移行し、私たちの日常生活も徐々にではありますが以前のように戻ってきたのではないのでしょうか。

そのような中、スポーツイベントにおいても盛んに行われ、応援も活気のあるものに戻ってきており、私たちはスポーツから多くの感動をもらい、スポーツの持つ力を感じ取ることが出来たのではないのでしょうか。

私にとって、特に印象が残っていることは8月26日に行われました「柏崎市陸上競技場100周年記念事業」でございます。600人を超える皆様と一緒にお祝いでき、歴史の重みというものを感ずることが出来ました。

また、新潟アルビレックスランニングクラブの久保倉里美ヘッドコーチをお迎えしたランニング教室には180人ほどの中学生・高校生から参加していただき、これからの活躍が楽しみなところでございます。

市民の皆様からは陸上競技に限らず、様々なスポーツに年齢関係なく親しんでもらいたいと思うところです。

本日の審議会ですが、第1回目で約束をしました「子どもたちが成長をしていく上でのスポーツの役割」について、現時点で事務局で考えている内容を示させていただきます。いろいろな経験をお持ちの委員の皆様からは広い見識の中で忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

限られた時間の中ですがどうぞよろしくお願い致します。

(2) 議事

① 柏崎市の子ども達が成長していく上での取組について

資料に基づき、事務局から説明。

また、資料の一部修正（「柏崎市第五次総合計画後期基本計画＞○全国や世界に通用する競技者を育てる＞1 競技団体との連携の強化と指導者の育成」の育成を養成に修正）を説明。

会長 確認ですが、今後のスケジュールについて、審議会で協議し、ある程度の内容が決定したら4月から作成に移るのか。

事務局 本日もご意見をいただき、また、審議会の中では言えなかった意見について、3月末ごろまで皆様からメール等で頂戴したい。

その後、いただいたご意見を踏まえながら、令和6年度の7月頃までに取りまとめた結果を委員の皆様へ返し、令和6年度は引き続き検討をしていきたいと考えている。

会長 本日もいただいた意見、また、後ほどメール等で伝えた意見を事務局で集約し7月頃までにまとめる。まとめたものは委員へ郵送等で報告を行うのか。

事務局 委員の皆様の任期が2年で今年度が最終年度となる。委員の中には各団体からお願いをして出てきている方をいらっしゃるため、結果をお伝えするのが新しい委員さんになるため、皆様にはご了承いただければと思います。

会長 改選期となり委員の皆さんご了承ください。  
では、中学校体育連盟としてご意見をお願いします。

委員 確認ですが、「育成」を「養成」に修正することについて、資料ではほかにも「育成」の表現が出てくる。そちらも「養成」に修正するのか。

事務局 柏崎市第五次総合計画後期基本計画について、表題は「養成」だが、本文中は「育成」の表現を使用している。本資料についても表題のみ「養成」とし、本文中は「育成」とする。

委員 資料中の「2 競技力の向上に向けた取組」について、中学校体育

連盟では、生徒の個性や体格差などあり、生涯スポーツの観点から、「競技力向上」のような勝利至上主義につながる表現は使わない。そのため、柏崎市の方針と中体連の方針が必ずしも一緒とはならない。

部活動の地域移行を進めると子どもたちが運動をしなくなるというのはイメージではないか。子どもたちは中学に入っても運動を続けたいという調査結果がある。ただ、運動をする受け皿が変わっていくのではないか。

今までの「先生方が土曜日、日曜日に大した手当もなく労働時間を超えた働きを行う」という教育課題を解決していく必要がある。

「子どもたちが運動をしなくなる」という表現は使わない方が良い。否定的イメージの情報が流れるとそのイメージへ情報操作されてしまう。

運動に限らず、生徒に対して「はつらつと自分自身を表現できること」が大切であり、学校の中では「体と心」という部分を大事にしている。

部活動の地域移行で願うことは、地域指導者に対して、技術だけでなく、道徳的な考え方や人間教育の考え方から指導を行ってほしい。それによってこれまで学校で行ってきた部活動が本当の意味で地域に移行したと言えるのではないか。

スポーツ協会でも指導者講習会でコンプライアンス研修を実施している。

また、プロスポーツの選手によるゴミ拾いなど、学校教育だけでなく、指導者が果たすべき使命がたくさんある。行政も様々な立場から進めていただくことで、日本人選手の世界に誇れるスポーツマンシップにつながる。

会長

小学校の立場として、ご意見を申し上げます。

委員

まず、柏崎市のスポーツ指針として、何を一番に大切にするか。様々な考え方・価値観があり、保護者や子どもたちはいろいろな情報や体験、活動ができる場がある。

スポーツフェスティバルのように、いろいろなスポーツを体験してチャレンジできる環境がある。

しかし、逆に全く興味を示さない小学生ももちろんいる。

市として、子どもたちの中から世界に通用するような競技者が輩出されることがあれば、地域の誇りや自信にも繋がる。

「競技者を育てる視点」と「教育として育てる視点」の二つを両

方とも大事にしてもらいたい。

小学生では、以前は野球や水泳など盛んであったが、最近はダンスが非常に盛り上がっている。SNS の影響もあるが子どもたちは非常に楽しそうに踊っている。ダンスの発表の場があるとなおさらである。六送会でもダンスをするなど子どもたちの間でかなりダンスは浸透している。

まずは、いろいろなスポーツにチャレンジして、自分の好きなものや個性を伸ばしていけるような方向性が良いのではないかと。

会長 次に、ご意見ををお願いします。

委員 小学校の体育の指導に関わっているが、小学5年生の跳び箱と複式学級だったがハードルの指導を行った。子どもたちは積極的であり、自らが率先して取り組んでいる。もっと色々なチャレンジができる環境があっても良いのではないかと感じた。

プレゴールデンエイジからゴールデンエイジの子どもたちに関わっているが、子どもたちは運動が本当に好きだと感じる。都会ではいろいろなスポーツ教室があり通う選択もあるが、柏崎市では限られるのが課題ではないかと。

会長 資料のカテゴリー「スポーツの発見」でスポーツフェスティバルや社会体育などあるが、情報が不足している。もっと小学生の時期に力を注いでも良いのではないかと意見をいただいた。

成長・発達やケガの観点から、ご意見ををお願いします。

委員 ダンスでは、新潟県のチームが世界大会に出場しており、要因としてSNSなどでダンスを見る機会が増え、競技者の増加につながったことがあるのではないかと。様々な機会を提供することが世界に通用する競技者の育成にもつながると感じる。

野球ひじのケアについて、新潟市では年1回の定期健診がある。

10～20年前と比べて、指導者のケアの考え方についてはだいぶ変わってきていて、高野連の球数制限などケアの必要性がずいぶん広まってきている。

会長 他はいかがでしょうか。

委員 資料を見た際に、競技者への取組ばかりに目が行ってしまい、競技者以外の生徒をどう取り組んでいくのかが必要ではないかと。

競技者以外の人からスポーツにどう関わってもらおうかが、地域づくりにつながっていく。

スポーツ基本計画の中では、「する」「見る」「支える」の三つにまとめられており、資料では「見る」「支える」の観点の取組が少ない。

例えば「見る」観点から、柏崎市の水球のまちづくりから、見るスポーツとして水球を普及させるためにルールを子どもたちに知ってもらい、審判目線での取組、サポーターの取組など、水球はしないけど見るのが好きという人が参加できるような取組、目標があっても良いのではないかな。

「支える」観点から、マラソン大会のスタッフとしてイベントに関われるような仕掛けづくりが必要ではないかな。

「する」観点から、学校では体力テストを実施しているが、一部の項目を除いて中・高校生の時期がピークである。いかにして中・高校生の時期に基礎体力を上げておくかが重要である。

社会人では、筋力トレーニングが重要になる時期である。「健康日本21第3次」では筋力トレーニングの目標が新たに盛り込まれる。筋力を向上させるプログラムが盛り込まれると良いのではないかな。

会長 「見る」「支える」の内容についても、実際には含まれているが見える形で表現した方が良いとのご意見をいただきました。  
他はいかがでしょうか。

委員 柏崎市第五次総合計画後期基本計画のなかに、「大きく変化する社会の中で時代に必要とされる人材を育成するために、企業や各種団体等、連携した活動を取り入れ、一人一人の個性を伸ばしながら、生涯に渡って学習する意欲を高め、課題解決能力や判断を養うことができる学習機会を提供していくことが必要です。」と、もう一つ「教育における学校、家庭、地域の連携、すべての子どもが生まれ育った環境に関係なく、健やかに成長できるよう、経済的な理由で就学困難な児童・生徒・保護者などに対して、経済的な負担の軽減に努めます。」があります。

競技者において、「スポーツだけができる」ではなく、「スポーツもできる」選手を目指し、指導者には将来を見据えた指導を行ってほしい。

スポーツ協会が開催した指導者講習会でコンプライアンス研修を受けたが、コンプライアンスの重要性を感じた。勝利至上主義ではなく、競技者それぞれの将来を見据えた道徳的指導が必要である。

会長 他はいかがでしょうか。

委員 障がい者スポーツの視点からの取組も入れてもらいたい。オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、障がい者スポーツの関心も高まっている。しかしながら、障がい者は動きの制限など様々な制限があり、スポーツに触れ合う機会が少ない。例えば、ブラインドサッカーのような健常者と障がい者が一緒にできるスポーツによる交流を進めてほしい。上越市で、視覚障害のメダリストと小・中・高校生が視覚障害の柔道を実施したとの記事があった。

小・中・高校生がいろいろな人と交流できることが心身の育成や将来を見据えた教育につながると思う。

会長 事務局は福祉課など所管課とぜひ協議をして進めてください。他はいかがでしょうか。

委員 競技者の保護者として、子どもは小さい頃は好きから始まり、自己ベストが出るとうれしいや仲間と一緒にするのがうれしいが原点であった。指導者からは人間を育てるところを重視してもらい、あいさつしっかりとするなど、人間を育てる部分が基礎になって、その上に競技力の向上があるのではないか。

また、競技とは逆にすることが好きで生涯スポーツとして続ける子どももいる。

どちらとも根本に「スポーツが好き、楽しいがある」と思うので、指導者にはそれを踏まえ、技術だけでなく教育として教えてもらいたい。

会長 競技者・指導者としてはいかがでしょうか。

委員 事務局へ質問になりますが、「水球のまち柏崎」の経緯とフレーズはいつごろから使われたのでしょうか。

事務局 柏崎市は、スポーツ宣言都市のような形では行っていないが、社会人の方が社会人水球チームを立ち上げた経緯がある。また、新潟国体の際に柏崎市が水球の会場となったこともあり、以前から柏崎市は水球に縁がありました。

そのような状況の中、市は施策として水球のまち推進室を立ち上げ、市外へ柏崎市をPRするため「水球のまち柏崎」のフレーズを使い、市全体として推進しています。

会長 柏崎市として水球を通じて市を盛り上げようと12～13年前から使用するようになったということか。

事務局 そうです。

委員 市として取り組むのなら、水球専用プールなどあっても良いのではないか。

会長 そのような話もある。

委員 サッカーをしているが、柏崎市には人工芝のサッカーコートがない。そのため、近隣市町村のサッカーコートを使用している。市内に人工芝のサッカーコートがあると競技環境も良くなる。競技力の向上には施設の整備・充当も必要ではないか。

指導者の育成について、以前は今では考えられない部分もあったかもしれないが、スポーツの根本的な部分には今も昔も変わらず礼儀作法や謙虚さなどを身に付ける要素がある。指導者には講習会などの機会もある。まずは大人からコンプライアンスを身に付けていきたい。

会長 地域での生涯スポーツとして、意見ををお願いします。

委員 コロナによる制限も緩和されたことにより、地域では行事も再開してきているが、コロナ禍以前には戻っていない。そのような中、スマートフォンアプリ「グッピーヘルスケア」を活用したウォーキング大会では枇杷島地区体育協会が全国大会で3位になるなど新しい取り組みに取り組んでいる。また、地域ではペタンクなど様々なニュースポーツに取り組んでおり、競技よりもレジャーとして生涯スポーツに取り組んでいる。

別件になるが、競技団体への資金援助についてなにか良い手当はないか。

会長 スポーツ協会では賛助会員に個人で登録していただくことも可能である。また、特定の競技団体になればそれぞれの連盟に直接寄付をすることは可能ではないか。

スポーツ推進委員として、意見ををお願いします。

委員 障がい者との交流を行っているが、今現在は知的障がい者施設への訪問や外国人との交流を行っている。身体障がい者の団体と以前は交流を行っていたが、団体が昨年解散してしまい現在は交流を行えていない状況である。また、ぜひ交流は復活させたいと考えている。

会長 いろいろなご意見をいただきました。  
時間も押してまいりましたので、まだ意見がある方は事務局へメール・FAX 等で3月末まで報告してください。

② 令和6・7年度のスポーツ推進審議委員の募集について

事務局から、令和6・7年度のスポーツ推進審議委員の募集について説明を行った。質問など特になし。

③ その他

令和6年度スポーツ振興課の新規事業について、事務局より口頭で説明。

委員 長岡スポーツコンパス羅針盤について、柏崎版を作成するのか

事務局 先ほどランドデザインとして示させていただきましたが、今後デザインで示すか、長岡のように冊子として示すか、今日の意見を踏まえて進めていきたい。  
今後子ども達の育成の指針が明確なものを作成していきたい。

会長 長岡スポーツコンパス羅針盤では、資料が多く、「見る」「支える」観点などがしっかりと記載されている。  
いろいろな作成の仕方があるので、今回、柏崎市ではA3サイズ1枚のデザインで見やすいものを提案されたと考える。

5 閉会

副会長 大変お疲れさまでした。  
2年間の任期で最後の会議となりましたが皆さんから大変貴重な意見をたくさん出していただき、施設を管理するものとして、1番大切なことは各カテゴリーの幼稚園児から高齢者までたくさんの人から使っていただける施設を提供したい。そのために努力していきたいと考える。  
皆様からの意見を参考にさせていただきたいと思います。  
本日はお疲れさまでした。



以上